

レジメンスケジュール

診療科	消化器外科
適応	進行再発大腸癌
レジメン	大腸mFOLFOX6+Bmab療法

申請・改訂日	2008年7月
備考	

クール関連	
-------	--

使用した臨床データ	
適正使用ガイド、がん化学療法レジメンハンドブック	

全クール																					
投与順	抗がん剤	薬品名	投与量	投与方法	時間・速度	備考	day1	day2	day3	day14		
①		デキサメタゾン注	9.9mg	CVポート	15分		○												終了		
①		グラニセトロン注	3mg				○														
①		生理食塩液	50mL				○														
②	○	ペバシズマブ	5mg/kg	メイン	初回90分 2回目60分 3回目30分可能	要フィルター total100mL 要フラッシュ	○														
		生理食塩液	100mL																		
③		レボホリナート	200mg/m2	CVポート	120分		○														
		5%ブドウ糖液	250mL																		
③	○	オキサリプラチン	85mg/m2	CVポート	120分	③同時に開始	○														
		5%ブドウ糖液	250mL																		
④	○	5-FU	400mg/m2	CVポート	全開		○														
		生理食塩液	50mL																		
⑤	○	5-FU	2400mg/m2	インヒューサーポンプLV5	46時間	※総液量を224-226mLとする	○	○	○												
		生理食塩液	※																		
⑥		デキサメタゾン	8mg	内服		オプション		○	○												

投与量	オキサリプラチン	5FUBolus	5FU持続
開始用量	85mg/m2	400mg/m2	2400mg/m2
1段階減量	65mg/m2※	300mg/m2	2000mg/m2
2段階減量	50mg/m2	200mg/m2	1600mg/m2

投与開始基準

大腸FOLFOX (5FUとオキサリプラチン)

投与可能条件	好中球1500/mm ³ 以上、血小板75000/mm ³ 以上であれば、2コース目以降の投与可能
--------	---

減量・中止基準

大腸FOLFOX (5FUとオキサリプラチン)

副作用	程度	処置
好中球減少	G3以上	休薬、次回20%減量を検討
血小板減少	G3以上	休薬、次回20%減量を検討
消化器系の副作用	予防的治療の施行にもかかわらずG3以上発現した場合	休薬、次回20%減量を検討
肝機能障害	T-Bilが5mg/dL以上	5FUの投与中止
ベバシズマブ		
副作用	程度	処置
高血圧	G1 (症状はなく一過性の拡張期血圧の20mmHgの上昇、以前正常であった場合150/100mmHgへの上昇)	特に介入は必要としない。投与継続可能だがモニタリングを継続
	G2 (再発性、持続性または症状を伴う拡張期血圧の20mmHgの上昇、以前正常であった場合150/100mmHgへの上昇)	降圧薬 (単剤) による薬物治療が必要となる場合がある。投与継続可能だがモニタリングを継続
	G3 (2種類以上の降圧薬または以前より集中的な治療を必要とする場合) G4 (高血圧性脳症や高血圧性クリーゼなど、生命を脅かす場合)	血圧コントロールが可能になるまで休薬 投与中止、以後再投与はしない
出血	重度の場合	投与中止、以後再投与はしない
蛋白尿	G1 (1+または0.15~1g/24h)	特に介入は必要としない。投与継続可能だがモニタリングを継続
	G2 (2+~3+または1~3.5g/24h)	G1に回復するまで休薬
	G3 (4+または3.5g/24h超)	G1に回復するまで休薬
	G4 (ネフローゼ症候群)	投与中止、以後再投与はしない
消化管穿孔、瘻孔	発現時	投与中止、以後再投与はしない
損傷治癒遅延	発現時	投与中止、治癒するまで再開しない
血栓塞栓症	発現時	投与中止、以後再投与はしない
可逆性後白質脳症症候群	発現時	投与中止、以後再投与はしない
骨髄抑制、感染症	発現時	投与中止
うっ血性心不全	発現時	投与中止、以後再投与はしない
間質性肺炎	発現時	投与中止、以後再投与はしない
血栓性微小血管症	発現時	投与中止、以後再投与はしない
解離	発現時	投与中止、以後再投与はしない